

人権の広場

3月1日～8日

女性の健康週間

問合先 いずみさの女性センター (☎・Fax 469・7125)
 女性には妊娠や出産をする可能性があるなど、生涯を通じて、男性とは異なる健康上の問題に直面することがあります。しかしながら、日本の女性の検診率は低い状況にあり、女性特有の病気が若い世代に増えつつあることも心配されています。ぜひ、この週間に機に検診を受けるなど、自身の身体を大切にすることを考えてみてください。

「第2次いずみさの男女共同参画行動計画（人ひとプラン）」の中でも、「男女の生涯を通じた健康・保持支援」を基本目標の一つとしています。男女が互いの身体的性差について、理解を深め、お互いを尊重し思いやりをもって生きていくことは、誰もがいきいきとした社会づくりにはとても大切なことです。



【3月8日は「国際女性デー」】

国連は1975年（国際女性年）に3月8日を国際女性の日としました。女性に対する差別撤廃と、社会開発への完全かつ平等な参加に向けた環境整備に貢献することが日本を含め各国に期待されています。

世界経済フォーラムは令和元年、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数を発表し、日本は153カ国中121位でした（平成30年は149カ国中110位）

特に政治、経済分野で格差が大きい日本の状況が反映していると考えられます。国際的な視野でも、日本の社会は男女の平等が進んでいるとは言い難い状況です。

日本は日本の文化、社会の状況などにも配慮しつつ、国際的な概念や考え方を重視し、国際的な協調を図ることが必要です。

そのためにも、私たち一人ひとりが身近な暮らしの中の慣習や意識を見直し、男女がともに暮らしやすい環境について考えることが大切です。

夜間中学校で勉強しませんか（生徒募集）

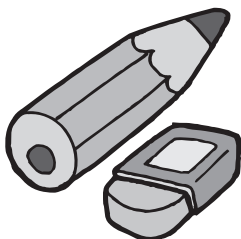
いろいろな事情で小学校や中学校を卒業できなかった人、実質的に十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した15歳以上の人、いっしょに勉強しませんか。

- 入学の受付は4月30日金までです。（土・日曜日、祝日は除く）
- ひらがなから勉強できます。
- 大阪府内に住んでいる人が入学できます。
- 外国籍の人でも入学できます。
- 授業料は無料です。



問合先

- 堺市立殿馬場中学校 (☎072-221-0755) 堺市堺区櫛屋町東3丁2-1
- 岸和田市立岸城中学校 (☎438-6553) 岸和田市野田町2丁目19-19
- 泉佐野市教育委員会 学校教育課 (☎463-1212) 泉佐野市市場東1丁目295-3



小・中学校の児童・生徒から多くの人権作品が寄せられ、昨年末に入賞者が決定し、各校に賞状が送られました。そのなかの最優秀賞受賞作品の一部を紹介します。(順不同・敬称略)

問合先 学校教育課

【読書感想文】「私たちにできること」

長南中学校2年生 岩崎一葉

八月六日、私たちの学校では、平和学習日でした。七十五年前のその日、広島に原子爆弾が投下されました。投下された八時十五分、私たちは原子爆弾で犠牲になった多くの方を想って、黙とうをささげました。そして、私は二年生代表として、今まで学んだ平和学習について発表しました。二年生の発表で一番伝えなかったのは、「ぬちどう宝」という言葉です。沖縄に昔からある大切な言葉で、「この世の中で命が一番大切なもの」という意味がこめられています。大切な命を奪った原子爆弾、そして戦争のことを皆と一緒に考えるこの日を、私は大事にしたいと思いました。

また、私は人権問題研究部に所属しています。これまでに人権学習に取りくんできて、もっと「平和」「人権」について深く考えたいと思いました。

「平和のバトン」は広島の高校生が被爆した方々のお話を聞いて当時の状況を絵にするプロジェクトを描いた話で、ノンフィクションです。この本をぜひ読んでみたいと思い、手に取りました。

小学校の時に平和学習をして、被爆した方々が今もなお、原子爆弾によって辛い思いをしているということがとてもいやだなと思いました。さらに「平和のバトン」を読んでかろうじて生き残った人たちも、家族や友達を失い、生きる気力さえもなくなった原子爆弾はとても恐ろしいと思いました。そして奇跡的に命をつないだ人々の中に「なぜ、自分だけが生き残ってしまったのか」と自分を責める人もいたということを知ったとき、私はとても悲しくなりました。そして被爆者というだけで結婚できなかった人、「もしかしたら自分の子供も、原爆症になるのではないか」と思い、被爆したことをひた隠しにしていた人もたくさんいた、という事実を知って、原子爆弾は本当に残酷なものだと思いました。その人は何も悪くないのに、原子爆弾のせいで、自分を責めてしまったり、「被爆者」というだけで生きづらくなってしまったりすることがとても悲しいと思いました。

また私が驚いたのは、戦争を経験したことのない高校生がそれを絵にしようと考えたことです。自分が見たことのないものを絵にすることはとても難しいことなのに、それを成し遂げた広島の高校生たちはすごいと思いました。でも、成し遂げることがで

きたのは、被爆された方々が自分が思い出したくもない辛い話を包み隠さずしてくださったからだと思います。人並み外れた使命感がなければそんなことはできません。話してくださった方々の思いをうけとって、原子爆弾も戦争も知らない高校生たちが被爆体験を聞くだけではなく当時の悲惨な光景を自らの作品としてよみがえらせることも、強い使命感の表れだと思いました。

この本を読み終わったときに、戦争は改めてしてはいけない、させないことが大事だと思いました。この悲惨な出来事を、過去の話で終わらせてはいけません。私たちにとって広島に原子爆弾は歴史上の話だと思いがちだけど、原子爆弾が落とされたのはほんの七十五年前。私たちには関係のない話だとは思わずに今一度、戦争・原子爆弾・核兵器について考えるべきです。まずは、世界の人々が核兵器のことについて知ることが大切です。知らなければまちがっていることに気づけないかもしれないし、そんな人が増えてしまうと世界から核兵器は無くなりません。原子爆弾を作らせない、使わせない、ましてや使う状況にさせないことが大事だと思います。

戦争体験した多くの方々があのようなひどい目に二度と遭わせたくないと思い、頑張ってきてくれたから今の平和があると、私は思っています。だから私たちが、この原子爆弾の恐ろしさを後世に語り継いでいかなければいけません。原子爆弾が再び使われることがないように、核兵器の恐ろしさを訴え、平和の尊さを伝えるために…。私たちにできることは少ないかもしれないけれど、被爆した方々の思いを真摯に受けとめてそこから何か得られるものがあるのではないかと、私は思います。

今年の平和学習の八月六日、長南中学校から高校生平和大使に署名を送りました。私は代議員として、クラスの全員に署名をしてもらえるように呼びかけました。核兵器のない平和な世界の実現のためにできることをしている平和大使の「ピリョクだけどもリョクじゃない」という言葉に共感したからです。私たちにできることは少ないかもしれないし、小さいかもしれないけれど、何もしなければ何も変わらないと思います。だから私は自分にできることをまず見つけて、それをやっていきたいと思っています。

小・中学生人権作品 「人権はみんなの課題」

【標語】

やさしさは 人にとっての宝物

長坂小学校5年生 道本龍哉

いろんなピース みとめ合えば 平和のパズルが完成する

新池中学校1年生 田葉涼花



【詩】「ふつう」って何だろう

日根野小学校6年生 北浦美咲

「ふつう」って何だろう

私のふつうと母のふつうは

ちがう

母のふつうは父のふつうと

ちがう

百人いれば

百通りの「ふつう」がある

同じ「ふつう」というものはない

だったらみんなが言っている

「ふつう」って何だろう

もしかしたらこの世に

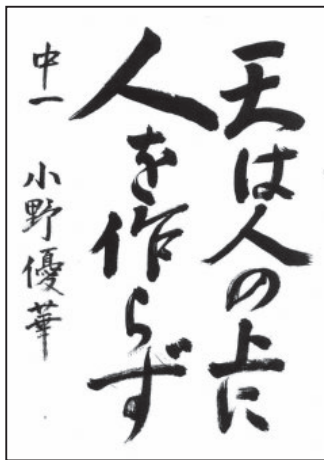
「ふつう」っていうものは

ないのだろうか

【書道】

◀新池中学校1年生

小野優華



◀長南小学校3年生

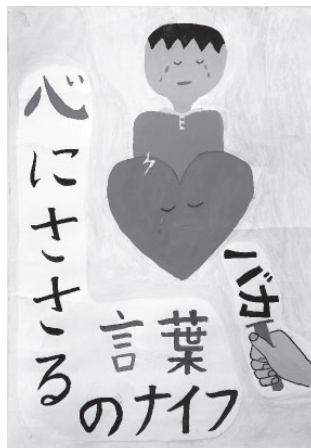
橋爪胡実



【ポスター】

◀中央小学校5年生

高西咲妃



◀佐野中学校2年生

木ノ元一葉

